



「紙バンド」をご存じだろうか。1ミリの程度のクラフト紙の紐が何本か接着されて、バンド状になったものだ。「米袋の紐」と言えば、思い出す方もいるかもしれない。紙の紐は一本一本燃っているため非常に強度がある。そ



日野明子さん

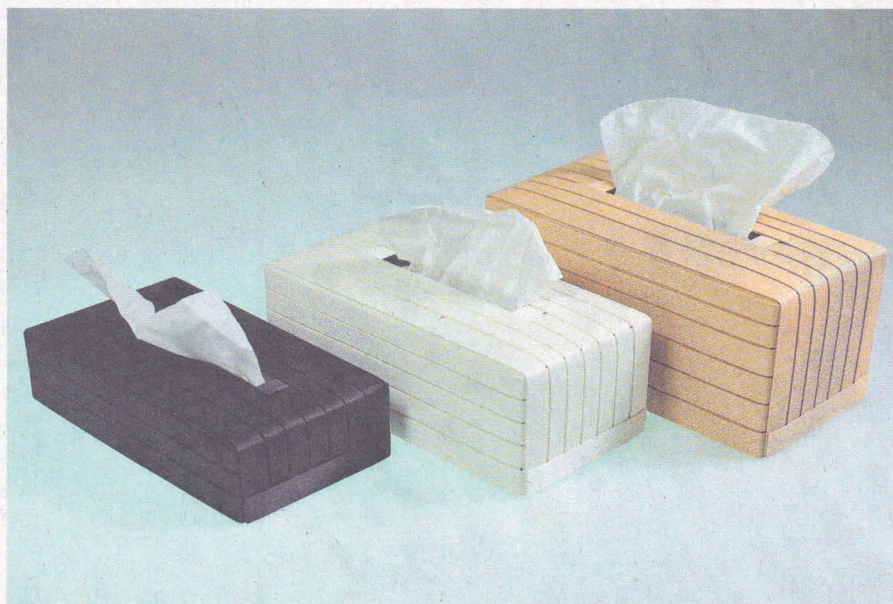
先日、仕事で沖縄に行ってきました。普段は知人の車で移動しますが、バスとレンタサイクルを駆使しました。今まで通ったことのない場所を通り、初めて見る景色も多く新鮮な気分を味わえました。目的地まで50のバス停にほぼ停車。地元民感覚を満喫しました。

紙紐の帯で和のカバー

れを切手の裏面の糊にも使われる人体に無害な接着剤で接着し、幅を出す。つなげる本数によって、自由に幅は変えられる。
「日本らしい美を感じる製品を世界の人に届けたい」との思いでバンドシーを設立した井窪浩一朗氏が、この紙バンド素材を生かしたティッシュボックスカバーの佇まい



は、まさに日本らしさを感じさせる。それは、紙を燃るという日本古来の「こより」の技術を応用した素材だからなのかもしれない。
世の中には牛乳パックやトレットペーパーの幅など、メーカーは違えどもサイズが同じものは多いが、井窪氏が国内メーカーのティッシュボックスのサイズを測ったとこ



バンドシー ティッシュケース mini (高さ6センチ、4400円)、Tall (同9センチ、5500円)、Max (同12センチ、6600円) =いずれも税込み
バンドシー (☎050・3044・0550)

ろ、なんと50以上もあったそう。今回の商品は、それらを5センチで網羅できる。今まで合わないサイズのカバーを使っていた人には、ありがたいサイズ展開だ。裏面にある2か所の留め具で、サイズ幅が数センチ違っても高ささえ合えば使うことができる。
ティッシュが手放せない花粉症の季節。目につくところにあっても邪魔にならないカバーはうれしい。
(クラフトバイヤー)

<ひとこと> バンドシー代表取締役の井窪浩一朗さん「インテリアに調和したティッシュボックスカバーをお探しの方におすすめです。ぜひ10色からお好みの色を選んでください。あらゆるサイズに合う自然素材のティッシュカバーと自負しています」